

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 尾倉 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学）

##### 教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問調査

##### 生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

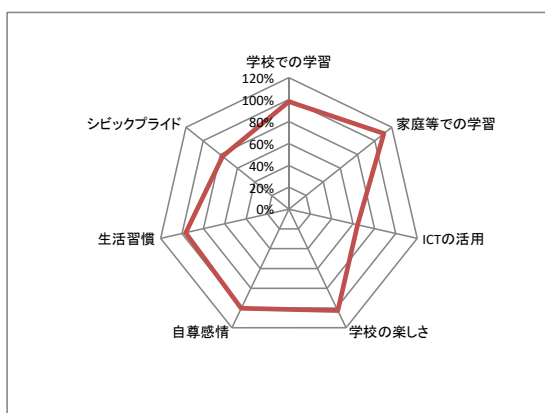
本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均・市平均よりもやや下回り、特に「話すこと・聞くこと」に関する力が低い結果となった。話合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書いて表現する項目について課題が見えた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしていく問題	
	努力が必要な問題	他者と自分の考えを結びつけながら、文章をまとめる問題。	

数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均・市平均よりも下回り、特に「数と式」に関する力が低い結果となった。また、グラフの読み取り・分析やデータ分布を比較するなどの「データ活用」の項目について課題が見えた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	確率に関する問題、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈する問題	
	努力が必要な問題	三角形の合同をもとにした証明問題、一次関数に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「学校に行くのが楽しい」との問いに対して90%以上の生徒が肯定的に回答している。また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」との問いに95%以上の生徒が肯定的な回答をしている。</li> <li>・ 学校で力点を置く「主体的・対話的で深い学び」や「個別最適な学び」の充実により、児童生徒の自己有用感等に反映されているのではないかと考える。今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「わかった」「おもしろい」と思える授業を実践していくことが求められる。</li> <li>・ 調査実施時点（4月）では「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今年度は、リーディングDXスクール事業（文部科学省指定）を推進する中でICTの効果的な活用について研究・実践を行っている。個別最適な学びの場面等で活用できるように啓発していく。</li> </ul>	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・ 生徒が身に着けるべき力を明確にした授業づくりと個別最適な学びによる基礎的・基本的な学力の定着

② 家庭生活習慣等に関する取組

・ 家庭学習の時間は確保されているが、学力の向上や基礎的・基本的な学力の定着につながっていない。家庭での自主学習を充実させるとともにや個々の能力に応じた学習課題に取り組ませていく必要がある。